

## 1 1. 牛RSウイルス病の対策と管内農場における抗体検査

大分家畜保健衛生所

○ (病鑑) 川部太一・(病鑑) 中野雅功  
病鑑 首藤洋三

今回、牛RSウイルス(以下BRSV)病が発生した2農場の衛生対策及び呼吸器病発生に備えた、管内農場における呼吸器病ウイルスの抗体検査を実施。また農家への立入り検査時において、指標となる立入り検査フローを作成時したのでその概要を報告する。

### ・発生農場対応

1) 2008年5月A農場で子牛群に *Mycoplasma bovis* を分離牛RSウイルス病が発生した。病性鑑定結果に基づき、飼養衛生管理や有効薬剤、抗体保有状況等から対策を実施し、発生は収まり現在まで再発も無く良好な発育を示し、生産者の衛生意識の向上を認めた。

2) 2009年3月B農場の子牛群が、呼吸器症状呈し病性鑑定を実施。その結果 *Pasteurella multocida* が関与した牛RSウイルス病と診断。対策として有効な薬剤、アキシソンの投薬を行い症状は沈静化した。今後のBRSV対策として、母牛61頭の抗体調査と子牛19頭の抗体の追跡調査を行なった。その結果、母牛では、中和抗体価32倍以下が17頭、64倍が7頭及び128倍以上が37頭とバラツキを認め、子牛の追跡調査ではウイルスの流行は確認されなかったが、移行抗体を保有しないものや高い抗体価を保有する等のバラツキを認めた。そこで、母牛の抗体が低いものにワクチン接種し、母牛のバラツキを抑え移行抗体を一定レベルに揃え、子牛には適切な時期のワクチン接種を実施した。

### ・管内農場における牛RSウイルス抗体検査

1) 疾病発生に備え6農場162頭の成牛において、BRSV,PIV-3,BCV,BVDV,Ad-7等呼吸器病ウイルスの抗体検査を実施した。その結果、農場によっては過去BRSVの流行を疑う結果や、BVDV,Ad-7は保有する抗体が比較的低い等のことが解かった。本調査は農場毎にウイルスの動向を掴むことができ、農場毎の状況把握が重要であると思われる。また呼吸器病発生時におけるpre血清としての役割を果たせると思われる。

(2) 4農場13頭の子牛において、おとり牛を用いて6, 8, 9月にBRSVの追跡調査を実施。その結果各農場においてBRSVの流行は確認されなかった。

#### ・呼吸器病発生時の立入り検査フローの作成

現在、呼吸器病発生時の立入り検査時において、各疾病毎の病性鑑定マニュアルはあるが、総合的な検査フローはない。今回当家保において、今までの症例等を検討し検査フロー作成し、迅速・的確な診断指導に努めている。

### ・まとめ

発生農場での対策では、種々の調査及び対策を講じて発生は収まり農家の衛生意識の向上も認められた。また、各農場において子牛の移行抗体消失時期の見極めが難しくため、ワクチンの接種適期や抗生物質の選択など農場全体を把握した対策が必要と考える。また治療以上に大切なものは予防であり、今後飼育管理やワクチンを適切な時期に接種することによって予防的対応を十分に取り入れた総合的な群管理を行わなければならない。